



セミナーのようす

日本代協
東海ブロック

世界の未来指標“SDGs”
「東海地区から世界を変える」
オープンセミナー開催

日本代協東海ブロック(金子紀代司ブロック長)は10月10日、名古屋市の名古屋東海上日動ビルで愛知県代協の主管によるセミナー「東海地区から世界を変える! SDGsオープンセミナー」を開催した。

当日は愛知県、三重県代協会員や保険会社社員、一般参加者を含めて約140名が参集するなか、一般社団法人中部SDGs推進センター代表理事の戸成司郎氏が講演した。

戸成氏は経団連活動やCSR推進のアドバイザーを各企業で務めるなど、中部圏を中心にした同テーマの第一人者で、SDGsが誕生した国際的な背景をCSR取組みなどと関連づけて2030年の世界観をイメージしやすく解説した。

SDGsに取り組みなければ事業活動の継続性に赤信号が灯る可能性が大きい反面、社会課題解決の期待に応えることで成長可能性の高いビジネスモデルが構築できるという、リスクと機会(ピジネスチャンス)の2つの視点からの意義を説いた。

さらに具体的な取組み

を行うには、従来の理性と論理的思考だけではなく個性を生かした感性と倫理的思考からのイノベーションが重要であるとして、名古屋本社のアパレルメーカーの新たな取組み事例などの紹介を行い、参加者の理解を深めていった。

講師からは最後に「保険代理店もSDGsを重要な羅針盤にして自社を見直し、あつと言う間に訪れる2030年に向けて戦略を立て、社内外にコミットすべきだ」と呼びかけた。

日本代協の金子ブロック長は「今までも地域に密着し続けている保険代理店が、今回のセミナーかけになれたのではない。域密着をより一層高めてSDGsは大企業や行政だけの取組み課題ではなく、身近な取組み課題でもあることを知るきっかけになったのではない。愛知が2030年に残る代理店モデルの一つは「ハートとハート、人との繋がりを、そして地」



奈良県代協は9月30日13時から約1時間の被害が少なからず発生している。代協ではこの活動を通じて自賠責保険制度の重要性のPRと無保険車追放の啓発活動を行っており、当日は奈良県代協会員・保険会社社員および国交省職員による自動車・バイクのドライバーや歩行者に対しPRチラシ入ポケットティッシュ(600部)の配布が行われた。

奈良県代協

間、近鉄西大寺駅前(北口・奈良ファミリー側)で国土交通省と共催で「無保険車追放キャンペーン」を実施した。

この活動は全国でPR活動が展開されているもので、自賠責保険・共済は強制加入となっているが、無保険車による交通事故が発生し、被害者は事故に遭った上に治療などの賠償を速やかに受けることができないなどの被害が少なからず発生している。